

## マダニ

平成24年の6月、茨城県水戸市の方から電話による問い合わせがありました。内容は、陶芸教室の窯元を訪れた際、周辺の山を散策したところ、足の親指と人差し指間の付け根に虫がいたので、取ろうとしたが深く刺咬してなかなか取れず、力づくで取ったということです。インターネットで調べたところ、タイワンカクマダニではないかと思い、マダニに関わる疾病にかからないか心配して連絡されてきたのです。医療機関の受診などについてお話をさせていただいた後、なぜ水戸市からと思ったのでお聞きすると、当研究所のホームページを見つけてのことでした。

マダニを原因とする疾病を媒介すると強く示唆されているのは、キチマダニ、フタトゲチマダニ、ヤマトマダニなどですが、被害にあわれたのが本当にタイワンカクマダニだったのか確認したくなりました。そこで、よければ見せてもらえませんかとお訊ねしたところ、病院からわざわざ返してもらって郵送していただきました。さっそく調べたところ、タカサゴキララマダニ(♂)でしたので、日本ではよく刺咬被害にあう種であることをお伝えしました。

## マダニの特徴

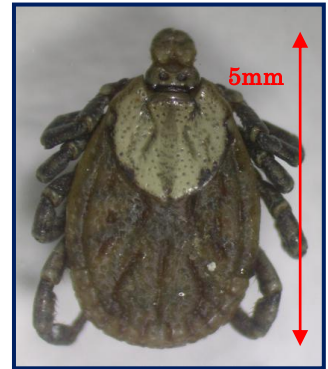
マダニは、アレルギーの原因になるダニとは姿、大きさが全く異なります。目で十分に見えますし、動物の血を吸うとアズキくらいの大きさにもなり、知らない間にほころができたとお勘違いすることもあるくらいです。マダニは普段、低い植物の葉の裏や茎の先端で吸血主を待ち伏せし、擦れた際に乗り移ります。そして、手ごろな吸血場所まで移動すると、皮膚に切り目を入れて口下片と呼ばれる特殊な口器を差し込みます。これには返しがあり、容易に抜けません。さらに、口下片と吸血主が離れないようにセメント様の物質を出して固めるため、簡単にとることができないのです。

そして、なんと1週間ほどかけてゆっくり吸血するのですが、血を吸っている間は気付かれないよう、その部位が麻痺するような物質まで出します。その際にリケッチアやウイルスなどを感染させることがあります。

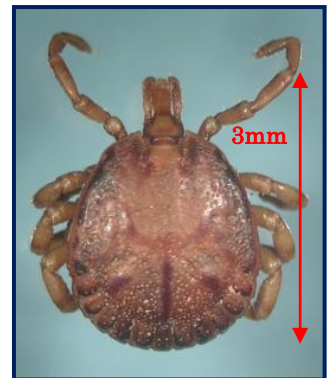
## マダニから身を守る

マダニは野山のいろいろなところにいます。吸血被害に遭わないよう以下のことに気を付けて身を守りましょう。

- (1) 草むらや藪などに入る場合、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用しましょう。
- (2) 地面に直接、寝たり座ったりしないようにしましょう。
- (3) 防虫スプレーは効果があります。
- (4) 屋外活動後は入浴し、体についていないかよく見ましょう。  
(ペットにも気を付けてあげて！)
- (5) マダニがついているのを見つけたら、できるだけ皮膚科や外科で除去してもらってください。
- (6) マダニに咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、病院に相談してください。



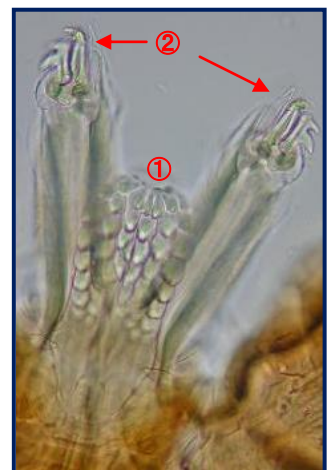
タイワンカクマダニ(♀)



送られた  
タカサゴキララマダニ(♂)



吸血主を待ち伏せる  
タカサゴキララマダニ



マダニの口器  
返しのある口下片①  
(皮膚を切る部位)②



ダニ-ノミ-マダニ-飽血マダニ



フタトゲチマダニ(♀)